

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R 6 入学 現 3 年生	国語		数学		英語
	2 年時	3 年時	2 年時	3 年時	3 年時
	県	全国	県	全国	全国
	61.8%	66.0%	47.0%	54%	445
	(1.01)	(1.06)	(0.90)	(1.00)	
R8 正答率の全国比		1.03		0.95	

◎ 2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

◎ 「中学校英語」は、3 技能「聞くこと・読むこと・書くこと」を統合した IRT（項目反応理論）に基づいて算出した IRT スコアを表示。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・本校の平均正答率と県正答率において、国語では上回っており、数学ではほぼ同じであり、英語ではやや下回っている。
- ・国語では思考判断表現の正答率が高い。「書くこと」に苦手意識を持っている生徒が多く、短答式・記述式の問題の正答率が低い。
- ・数学では問題場面を読み取り、問われていることを理解し解答を導くことができている。記述式の問題の無解答率が高く、問題解決の方法を数学的に説明したり、筋道を立てて説明したりすることが苦手な生徒が多い。
- ・英語では短い文章を読み取る力の定着が見られた。全体的に無解答率は低い。自分のことを英語で表現する問題に苦手意識を持っている生徒が多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・国語科では学校全体で振り返りを共有する。多角的な視点や提案を含む作文問題や、行事等のタイミングをとらえた記述課題を実施する。
- ・数学科では、基礎基本の定着を図るために、既習事項を復習する時間を設定する。記述式の問題に多く取り組み、慣れさせるとともに、問題解決のための筋道を考察する練習をする。
- ・英語科では基本的な単語や文型の定着を図る。帯活動として 3 行英作文を実施する。家庭学習でも「書く活動」を意識した活動ができるよう内容を工夫する。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・学習タイムを利用し、英語と数学の補充学習を実施する。
- ・自学ノートの取り組みにおいて、生徒自身が自主的に学習内容を選択するものだけでなく、意図的に取り組む教科領域を教科担当者が指定する課題を設定し、自学ノートの質を高める。
- ・学年集会や学活を利用し、効果的な自学ノートへの取り組み方講座を実施する。